

平成27年度「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」成果報告書

団体名	北海道教育委員会
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校名	障害種
北海道教育委員会	北海道札幌視覚支援学校	視覚障害

2 研究テーマ

視覚障害特別支援学校におけるICT機器を活用した効果的・効率的な指導内容・方法の在り方に関する実践的な研究

3 研究の概要

北海道における支援機器等を活用した教材による効果的な学習支援を普及・促進することを目的として、ICT機器の技術的支援を行う外部専門家（以下「専門的指導員」という。）と教員の十分な連携の下、視覚障害特別支援学校（事業実施校である北海道札幌視覚支援学校、以下「指定校」という。）を中心に、一人一人の視覚障害の状態に応じた、支援機器等教材の選定方法、指導方法、これらを踏まえた個別の指導計画の作成・活用、支援機器等教材に関する情報提供等の充実を図る事業を展開した。

○ 対象とした生徒の障害の状況

道内の視覚障害特別支援学校では、全失明、低視力、視野障害、複視、羞明、色覚異常など、多様な見えにくさ（以下、「見え方の状態」という。）を有する生徒が同じ学級に在籍していることから、一斉指導を行う上で、一人一人の見え方の状態に配慮した指導や支援が求められる。

また、現状では見え方の状態に応じて、教科等で使用することのできる教材は、点字教科書、拡大教科書など2、3種類と限られており、学習内容の確実な定着を図るためには、見え方の状態に応じた多様な教材・教具の準備が必要となる。

○ 支援機器等教材を活用した事例の構築と「Light Study システム」の運用

平成26年度に指定校が専門的指導員と教員の十分な連携の下、作成した支援機器等教材の選定にかかわる「生徒の見え方等に関する実態とコンテンツ等の対応表」を、指定校の授業準備の際に活用するとともに、他の義務盲学校において効果のあった活用事例の集積等を行った。さらに、指定校においては、「盲学校授業支援システム」を取り入れた授業を実施し、システムの運用と学習効果について検証を行った。また、システムに蓄積したコンテンツを閲覧するとき端末を使用する生徒自身の視覚障害の状態に応じて教材の文字サイズやレイアウトなどを変更できるよう機能を追加するなどの更新を行い、プログラムのバージョンアップを行った。名称も「盲学校授業支援システム」から「Light Study システム」に改めた。

4 研究の成果及び課題

指定校においては、「Light Study システム」の運用及び改善を行い、専門的指導員と教員の十分な連携の下、生徒の見え方の状態に応じた視覚情報の補完を効率的・効果的に行うため、タブレット端末を用いた授業の準備を支援した。また、本プログラムを活用した事例の集積を行うとともに、専門的指導員が支援機器にかかわる教員研修の実施等を行った。

さらに、他の義務盲学校においては、指定校からタブレット端末を貸し出し、一人一人の見え方の状態に応じて、支援機器等を活用した教材を効果的に選定するための「生徒の見え方等に関する実態とコンテンツ等の対応表(弱視)」を検証するとともに、各学校の支援機器にかかわる現状と課題について整理した。

また、地域の小・中学校特別支援学級担当者を対象とした「北海道視覚障害教育専門性向上研修会」及び全道の小・中学校、高等学校及び特別支援学校を対象とした理解啓発セミナー「支援機器等教材を活用した指導方法充実セミナー」を実施するとともに、研究成果リーフレット「教科指導におけるICTを活用した授業づくり～見る力を高める視点～」を作成・配付した。

今後は、北海道における支援機器等を活用した教材による効果的な学習支援の在り方にかかわり、本事業の成果の普及・促進を図るとともに、校内ICT推進体制の構築やICT機器の環境整備など、指定校と他の義務盲学校における取組を継承し、発展させていきたいと考えている。